[ここに入力]

～Z 世代をターゲットにした北杜市の New ブランド化～

【北杜市活性化のためのグループ】
青木柊吾　荒金匠　今別府大志　峯脇由輝　吉田武司、村山昂大

1.　目的

観光地にとって、観光消費額の確保は重要な問題である。その観光消費額の中でも、宿泊旅行消費額が 6~7 割を占めている。

2021 年 8 月に、北杜市にある八ヶ岳ツーリズムマネジメントに取材を行う機会があった。北杜市の課題は、古民家が多く残っており、宿泊客が少ないことだと言っていた。宿泊旅行消費額が観光消費額の多くを占める中で、北杜市は、集客効果や観光消費の増加が望める取り組みを行わなければならないと考えた。

現状把握だけをするのではなく、「今後どのようにしていけば良いか」という問題を提案し、自分たちの考えを結論として出していく。

2.　調査方法

北杜市の企業の方に、現状の課題、今後の展望、差別化について取材を行った後、北杜市へのフィールドワークを通して現状分析を行った。

3.　現状の報告

清里駅にて話を聞いた際には「現状の姿が本来の姿である」「一度注目度が高まった際に継続していけなかった」などと現状を悪いとは認識していなかった。

清泉寮で話を聞いた話によると建物自体は戦前から建てられていた。しかし、戦争によって焼失してしまいそれがきっかけとなって今現代の姿に生まれ変わった。このような実話を聞いているとはるか昔からある「長い歴史」というものを感じることができた。

自分たちの感想を書くとすると、何か新たなことが作れない脅威と現状に満足していることへの危機感を感じさせられた形になった。

4.　観光客を泊まらせるにはどうしたらよいのだろうか。

現状として最も深刻な問題なのが「1 日中遊んでもらえない」「顧客を止まらせたいのにプランがない」といった問題がある。

主にこの問題を引き起こしているのは次の 3 つである。「観光客が泊まれる施設がない」「若い世代の観光客の減少」「新しい行動を起こす意欲がない」これらの事例が根本にあるため行動を起こせずにいる。

これらを踏まえ、私たちは若者向けのニーズに合い、かつ旧小学校を宿泊施設として利用する「おいしい学校を生まれ変わらせる」という内容だ。現在のおいしい学校に「トレッキング」「民泊ホテル化」などの新性能をプラスして幅広い世代の観光客の導入を狙う。また、「晴天率の良さ」「夜の星空体験」などを付け足すことによって若者に人気が多い「映えスポット」としての効果も狙える構図となっている。

5.　結論

北杜市では、X・Y 世代（X 世代：主に 1960 年~70 年代生まれ、Y 世代：1980~90 年代生まれ）の観光客のリピーターは一定数いるが、Z 世代（Z 世代：2000 年代生まれ）の観光客の確保ができていない。しかし、今後の日本では、X・Y 世代から Z 世代への世代交代が起きると予想される。北杜市では Z 世代が魅力的に思う施設、観光スポットがないため Z 世代に向けた観光地づくりを行っていく必要がある。

今回示した提案が、その一例となるのではないか。